

II 樹形と仕立て方

[見出し]

1. 樹形構成の考え方 . . . [1]
2. 樹形の基本形
3. 剪定の時期と方法 . . . [2]
4. 準開心形
 - (1) 樹形の特徴
 - (2) 仕立て方
 - (1) 植付け1年目
 - (2) 2年目 . . . [3]
 - (3) 3年目
 - (4) 4～5年目以降
5. 杯状形（腰の高い叢状形）
 - (1) 樹形の特徴
 - (2) 仕立て方 . . . [4]
6. 一文字整枝形
 - (1) 樹形の特徴
 - (2) 仕立て方
 - (1) 植付け1年目
 - (2) 2年目 . . . [5]
 - (3) 3年目 . . . [6]
 - (4) 4年目以降 . . . [7]
7. X字整枝形（盃状整枝）
 - (1) 樹形の特徴
 - (2) 仕立て方
 - (1) 植付け1年目
 - (2) 2年目以降 . . . [8]

II 樹形と仕立て方

1. 樹形構成の考え方

わが国での主要な営利栽培品種は榊井ドーフィンと蓬＝柿で、秋果生産を目的としており、大部分が生食用として利用されている。

果実（秋果）は整枝・剪定にあまり苦勞しなくとも、発生する新梢には連年容易に着

果し、相当量の収量が期待できる。

収穫は日中の高温時をさけて、毎日見残しのないよう心がける。若どりすると品質はごく不良で、また熟した果実は日持ちが悪く、ていねいに収穫しないと商品価値をそこなう。さらに、品種特有の果皮色で成熟するためには、十分な採光が必要である。

品種の栽培上の特性を生かしながら、収量・品質、作業のしやすさなどを考慮した樹形にしなければならない。

2. 樹形の基本形

イチジクは比較的浅根性のため、重心が高いと風で倒れやすく、葉ずれによる傷果が生じる。多少粗雑な整枝法でも相当の収量が得られるため、いろいろの樹形が各地でとられているが、各整枝法の長所・短所をわきまえて、立地条件に合う樹形に仕立てる。

3. 剪定の時期と方法

剪定は落葉後から翌年2月の間であればよいが、凍寒害のおそれのある地域では、厳寒期を過ぎてから行なう。

イチジクの枝は木質部が粗いため、残す節（芽）の直上部で切ると、切り口が乾燥して亀裂を生じ、発芽伸長が悪くなる。残す節とその上位節との中間または上位節の芽の位置で切る犠牲芽剪定をする。

若木時代は枝が強く伸び、鋸で切るていどに肥大するので、切り口には木工用ボンドを塗布して保護する。節から上の部分は秋までそのままにおくと枯れ込んで癒合がしにくいので、6月中下旬に新梢発生の直上部で切る。

3月以降の剪定は、切り口から樹液の出が多く発芽が遅れる。樹液が流動する時期は、切り口がなるべく乾燥しているほうがよいので、樹液流動開始15～20日前までには剪定を終える。

4. 準開心形

(1) 樹形の特徴

植栽間隔は畦幅2.7～3.6m、株間3.6m（10a当たり75～103本）、主幹の高さ40cmくらいとし、3方向に主枝を伸ばす。

樹勢が強く枝梢が長大に伸びる若木時代は開心自然形に仕立て、樹冠容積が大きくなり、結果枝が隣接樹と交わる4～5年目から結果母枝は1～3節に切り返し、樹高を低く維持する。

樹冠容積が大きく重心が高いため、風による倒れ、葉ずれによる傷果が多い。風当たりの強い場所では、倒伏防止のため丈夫な支柱が必要である。

樹形が立体的だから樹冠内の採光は良好で果実の着色はよいが、管理に要する労力とくに収穫に手間がかかる。枝梢の強弱によって結果母枝の切返し程度が加減できる。いわゆる樹勢に応じた剪定ができるので樹勢の落ちつきが早く、若木時代から品質のよい果実が収穫できる。

樹勢が強く枝が長大に伸びる品種（蓬＝柿、ホワイトゼノア、セレストなど）に適した樹形である。また夏秋兼用種で夏果、秋果を収穫する樹形にも適する。

(2) 仕立て方

(1) 植付け1年目

植例けした苗木は、地上40cmほどの高さで切り主幹とする。幹の高さが高いと樹の重心が高く、風による倒伏が多い。

4月下旬に新梢が発芽し始めるから、主枝にする3本の新梢は車枝にならないよう3方向に残し、他は早めに芽かきする。芽かきの時期が遅れると上位の新梢勢力が強くなり、主枝に強弱の差が生じやすい。新梢は枝葉の重みで垂れ下がるから、丈夫な支柱にそえて目的の方向に誘引する。

冬季剪定は60cmくらい残して切り返す。切返し点の先端になる芽は、横芽か外芽を用いる。

(2) 2年目

樹冠の内側（主枝の背面）に発生する新梢を残すと強大になり、他の芽の伸長の妨げとなるから早めに芽かきする。

各主枝に3～4本の新梢を残す。主枝延長枝は前年同様支柱に誘引し、他の新梢は側方に伸ばす。どの新梢にも果実がつき、かなりの収穫がある。

冬季剪定は、主枝延長枝は40cm、他の枝は20cmにそれぞれ側芽で切り返す。

(3) 3年目

春から夏にかけての新梢の取扱いは前年同様に行ない、25～30本の新梢（結果枝）をつける。

冬季剪定時に主枝に対し斜め下向きの枝を亜主枝とし、左右交互に30～40cm間隔をおいて配置する。主枝と亜主枝は20～30cm、他の枝は2～3節で切り返し、結果母枝とする。結果母枝は結果枝が約40本発生するていどに残す。

(4) 4～5年目以降

展葉2～3枚目ころに芽かきを行ない、結果枝を40本ほどつける。枝の強弱によって発芽が不揃いとなりやすいので、芽かきは2～3回にわけて行なう。

本年以降の冬季剪定は、結果枝の発生位置が高くないよう、結果母枝は1～3節の切返し剪定をくり返す。結果母枝の切返しで特に注意することは、結果枝が込み合わないよう枝の間引きと、剪芽の方向を誤らないことである。

5. 杯状形（腰の高い叢状形）

(1) 樹形の特徴

植栽間隔は畦幅2.7m、株間3.6m（10a当たり103本）、主幹の高さは40cmくらい、成木時の樹形は腰の高い叢状形に似た形で、1樹当たりの結果枝は約30本にとどめる。

結果母枝の高さは1.2～1.5mで平面的である。そのため、枝梢が密生にすぎると果実の品質低下をまねくので、結果母枝の配置、芽かきに注意する。

幼木時から強剪定をくり返すので、根群域が地下水位で制限される水田地帯のイチジクの樹形としては適するが、樹勢が強い品種、あるいは耕土が深く枝梢が徒長ぎみに伸びる条件下では、熟期が遅れ、果実が小さく着色不良になりやすい。

(2) 仕立て方

植付け1年目の剪定は準開心形と同様に行ない、3本の主枝を車枝にならないように発

生させる。主枝は50～60cmに切り返し，2～3本の枝梢を出し20cmくらいに側芽で切り返し，各枝からさらに2本の枝梢を出し，翌年も同様な剪定を行なう。主枝の分岐を多くとり，枝梢を横にひろげるように心がける。

4～5年目で結果枝の先端が隣接樹と交差するので，それ以降は樹高を低く維持するため結果母枝は1～2節の切返し剪定をくり返す。発芽の方向と芽かきに注意し，枝梢が密生しないよう，1樹当たり30本ほどの結果枝数に制限することが大切である。

6. 一文字整枝形

(1) 樹形の特徴

植栽間隔は畦幅1.8～2.0m，株間5～6m（10a当たり84～112本），主幹の高さ40cmくらいとし，畦と同方向に主枝2本を左右に水平に伸ばす（ブドウのT字形整枝に似る）。主枝近くから発生する枝梢は，2～3節目で切る切返し剪定をくり返し，結果枝発生位置を主枝近くに保つよう心がける（ブドウの短梢剪定と同じ要領で切返し剪定を行なう）。結果母枝間隔は，主枝の片側で40cmくらい，結果枝はほぼ直上に伸ばし架線に誘引する。

植付け3～4年目で成園なみの収量が得られる（10a当たり3～4t）。

樹高が低く，結果母枝の高さが平面的なので，結果枝上の着果位置がそろそろ。また管理作業が畦間でできるので，他の樹形に比べて能率があがる。特に油処理，収穫作業が能率よくできる。さらに結果枝を誘引するから風による傷果の発生などの気象災害が回避できる。

植栽の畦幅が狭く，根群域の範囲が他の樹形より狭いため，夏の用水確保が得やすい水田転換畑に適する樹形で，矮性に維持できる利点があるため施設栽培の樹形としても最適である。

この樹形で特に考慮する点は，結果母枝の高さが平面的なので結果枝を密に残すと下位節の採光が悪く，早く収穫する果実の着色がすすまず，品質低下をまねきやすいことである。したがって結果枝の配置には特に注意する。

この樹形は，連年の強い切返し剪定でも枝梢が徒長ぎみに伸びることが少なく，着果の容易な品種（柘井ドーフィン，サンペドロブラック，アーテナ，ブラウンターキー，カドタ，ホワイトイスキアなど）に適する。

樹勢が強く枝梢が徒長ぎみに伸びて，着果が遅れる品種（蓬＝柿，ホワイトゼノア，セレスト，ブルンスウィック，ロイヤルビンヤードなど）は，収量が少ないからこの整枝形は不適である。

(2) 仕立て方

(1) 植付け1年目

植付けした苗木は，地上40cmくらいの高さで切り返し主幹とする。主幹の高さは，主枝の高さ（結果母枝の高さ）になるので，畦の高さと成木時の作業をも考慮して決定する。

苗木は4月下旬に発芽伸長し始める。新梢が15cmていどに伸びたとき，左右の勢力のよい2本を残し他はすべて芽かきをする。この2本の新梢は将来主枝となるので，主幹に対して発生角度が広く，畦方向に対して20度くらいの角度をもって伸長しているものが

よい。発生角度が狭く畦と同方向に伸びている新梢は、翌年主枝を水平に倒すとき主枝分岐部が裂けやすい。

枝梢は斜め両方向に支柱を立てて誘引する。左右の主枝勢力をそろえて伸ばすことに主眼をおき、強勢な枝梢は倒し、弱勢な枝梢は立てるようにする。枝梢の先端が下垂すると副梢が発生する。副梢は充実不良のため冬に枯れ込み、翌年の枝が確保しにくいことがある。

施肥は枝梢の伸長状況をみて加減するが、8月末から9月上旬には伸長がほぼ停止していることが望ましい。

冬季剪定での主枝の切返し点は、枝の色が褐色からしだいに緑色に変わる付近で、充実のよい部分で切る（全枝長の3分の1ないし4分の1を切り捨てる）。切返し点になる芽は、主枝延長枝になるので、主枝を水平に倒したとき横になる芽を選ぶ。上下になる芽を用いると、将来主枝に上下の波ができる。

(2) 2年目

畦の中央、地上40～50cmの高さに径16mm前後のパイプか8～10番線を張り、これに主枝を引き下げて誘引結束する。誘引結束の時期は、樹液が流動し発芽が始まる4月中旬がよい。主枝の分岐部で左右の枝にたすきがけをして、主枝の基部をねじるように倒すとよい。

主枝先端にある芽から発芽を始め、日を追って基部近くの芽が発芽する。この間2週間ちかくかかることもあるので、不要な芽（主枝の背面から直上に伸びる芽、先端近くで強勢に伸びる芽）は早めにかき取る。

主枝の最先端から伸びる新梢は、主枝延長枝となるので、斜めに支柱を立て、先端が下垂しないよう誘引する。主枝の両側に伸びる新梢は、結果枝として20cm間隔に交互に配置し（主枝の片側で40cm間隔、主枝1m当たり5本）、他の芽はすべてかき取る。結果枝は、地上120～150cmに針金を張り、これに誘引する。

冬季剪定は、主枝延長枝は前年同様に充実がよい位置で切り返し、その他の枝は基部2～3節残して切り結果母枝とする。結果母枝の剪定は、内側の芽（上芽）で切ると枝梢が直上したり内向したりして結果枝間隔が狭くなり、樹冠内の採光が低下するので外芽で切る。

(3) 3年目

主枝延長枝の誘引結束、結果枝の配置と誘引は前年と同様に行なう。主枝の背面から直上する新梢は伸長が盛んで強大となり、果実の熟期が遅れたり、その枝より先端に発生する結果枝の伸びが弱まって樹形を乱したりするので、必ず芽かきで除去する。

本年で隣接樹と枝先が交差し、ほぼ成木園になり樹形が完成する。

冬季剪定は、主枝延長枝は水平に倒したとき双方の主枝間隔が20cmとなる位置の上芽で切る。その他の枝は、主枝から伸びた枝梢は基部2～3節目、結果母枝から伸びた枝梢は基部1～2節残して側芽で切り返す。

(4) 4年目以降

結果母枝は基部1～2節で切り返す短梢剪定をくり返す。結果枝発生位置が高くなった

り、主枝からの距離が遠くなったりしないよう注意する。

7. X字整枝形（盃状整枝）

（1）樹形の特徴

植栽間隔は畦幅2.7m，株間2.0～3.0mにとり，主幹の高さ50cmくらいとし，主枝4本をX字に水平に伸ばし，4方向に拡大して結果母枝を50cm間隔に配置する。連年1～2芽の切返し剪定をくり返し，結果枝発生位置を主幹の高さ付近に維持する。

一文字整枝形と同様，結果母枝の高さが平面的であるから，結果枝上の着果位置がそろろう。各結果枝は直上に伸ばし支柱にそえて結立するので，気象災害による傷果の発生が少なく，果実の揃いがよい。結果枝を密に残すと葉が重くなり，下位節の果実が日照不足で着色がすすまず，品質が低下する。1樹当たりの結果枝本数を適正に保ち，成葉17～18枚目で摘芯を行ない採光を図る。

この樹形に適する品種は一文字整枝形と同様，連年の強い切返し剪定でも枝梢が徒長ぎみに伸びず，下位節からの着果がよい品種（榎井ドーフィン，サンペドロブラックなど）である。

（2）仕立て方

（1）植付け1年目

植付けした苗木は，地上50cmくらいの高さで切り返し，主幹とする。主幹の高さは主枝の高さ（結果母枝の高さ）になるので，成木時の作業のしやすさを考慮して決定する。

発芽後の芽かきが遅れると，主枝となる4本の生長が不揃いとなりやすく，特に最先端の芽は強勢に伸びるから早めに除去する。主枝とする枝梢は，主幹との発生角度を広くとりつつ四方向（X字）に伸ばし，先端が下垂しないよう支柱にそえて誘引する。

冬季剪定での主枝の切返しは80cmくらいの位置で，充実した外芽で切る。枝梢の重みで主枝先端が下垂しないよう丈夫な杭を立て，主枝分岐部よりも先端を高くして固定する。

（2）2年目以降

各主枝に4本の新梢を間隔をあけて残し，結果枝とする。この枝梢が今後の結果母枝（側枝）となるから，残す方向と位置を誤らないように心がける。主枝の背面から上向きに伸びる芽はすべて除去し，側面に伸びる芽を残す。先端の芽は主枝の延長方向に，他の芽は所定の間隔をおいて側方に伸ばし，それぞれ支柱を立て結立する。

冬季剪定は外芽で短梢剪定し，それぞれから1本の結果枝を伸ばし，支柱を立て結立する。結果枝発生位置が高くなったり，また結果母枝間隔に広狭ができないよう，剪芽の方向を見定めて短梢剪定をくり返す。